

# ぶらり訪問①

この人と30分



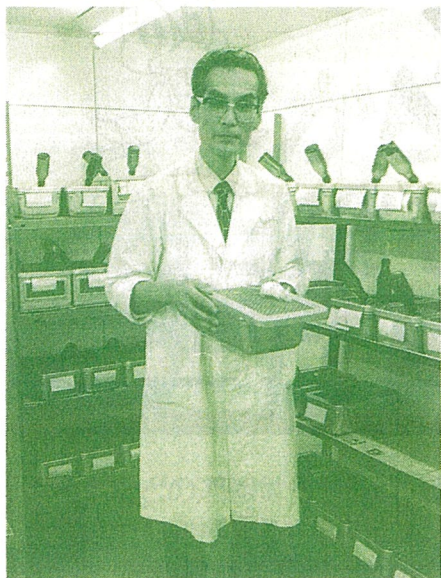
## 熱意のある人が 多かったですね。

初春第一号の新企画は訪問インタビュー。第一回は昭和六一、六二年のマウス実験でお世話になった静岡大学・水野秀夫先生。師走のある日、大学の研究室をぶらり訪問……。

### 水野 秀夫 氏

(みずの ひでお)

昭和5年東京生れ・28年東京大学農学部卒業、34年同大学院修了・日本大学助教授を経て、44年静岡大学農学部助教授、59年より同教授(応用生物化学科)。「何にでも興味を持つ野次馬的な性格」とはご本人の弁・静岡市在住。



#### マウス実験の その後は?

材質の違いによるマウスの運動量、体重と摂食量の観察をしました。また、室温を二五℃に保ちながらコンクリート、金属、木質の各ケージの床下を十℃まで冷やし、同様の実験を行うと共に、異常行動の観察、血液の性状、ストレス度、臓器重量もチェックしています。

#### 異常行動、 ストレス度って?

マウスが自分の尻尾を噛んで、くわえながらケージの隅から隅へ走る意味のない反復行動「ステレオタイプ」のことです。このような反復異常行動は動物園の動物でも人間でも見られますが、この発現の状態も環境条件の快適さの指標になります。ストレス度は、ホルモンの分泌も目安になります。

お察しのとおりこの実験でも、ケージ床材質の熱伝導率が大きく影響しますから、こ

れまでの実験よりさらにはつきり木の優位性が出ました。

#### 実験を通じて見た木材業界、 業界人の印象は?

熱意のある人が多かったですね。観念論でなく、実験の裏付けによるデータで木の良さを何とか確かめようという意気込みが感じられました。

また、森林資源科学科の公開講座や業界との共同・委託研究を見ても、産官学が協力して事に取り組む姿勢に好感が持てましたし、少しずつその効果が出てきているようにも思います。

#### 実験を通して 木材再発見は?

木材だけでなく、私達は皮、羊毛、綿、絹等の天然産物の短所を知りつつ、その長所を利用してきたわけです。実験室の木質ケージもよれやすい、洗うと乾きにくい、ひずみやすい等の短所に対し、柔らかさ、暖かみ、肌ざわり等の長所を併せ持っているというように。改めて再発見とい

うことはなかったが、常識的観念的にわかっていただけを計数的に評価でき、結果として身近なテーマで業界に貢献できたことはよかったです。

#### 業界に向けて ひとこと。

木材も夢を追い過ぎると可能性で勝る新素材が取って代わることにのみなりかねません。木材の欠点を消そうとすれば当然良さも損なわれるわけですから、化学加工もこの点への配慮が必要ではないでしょうか。

自然と人間の調和の中での産物利用が大学農学部の一使命とするならば、木材という素晴らしい産物と地球環境への社会的な関心の高まりや、国土保全という観点からも、木材業界にも社会的に大きな使命があると思います。

今後共、地域に開かれた大学として、業界との共同研究、公開講座等、一緒に取り組める課題が多く出てくると思います。 (文責 編集室)